

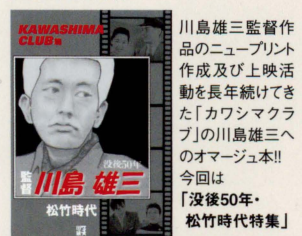
5月		
12(月)	還って来た男 人も歩けば	12:30/15:45/19:00 10:35/13:50/17:05/20:20(終映22:00)
13(火)	とんかつ大将 特急につぼん	12:00/15:30/19:00 10:20/13:50/17:20/20:50(終映22:15)
14(水)	東京マダムと大阪夫人 グラマ島の誘惑	11:25/15:10/18:55 9:30/13:15/17:00/20:45(終映22:30)
15(木)	明日は月給日 接吻泥棒	12:10/15:35/19:00 10:30/13:55/17:20/20:45(終映22:10)
16(金)	お嬢さん社長 暖簾	10:30/14:35/18:40 12:20/16:25/20:30(終映22:30)
17(土)	愛のお荷物 洲崎パラダイス 赤信号	11:30/15:15/19:00 9:55/13:40/17:25/21:10(終映22:30)
18(日)	女は二度生まれる しとやかな獣	11:35/15:20/19:00 9:45/13:35/17:15/20:55(終映22:30)
19(月)	銀座二十四帖 女であること	10:30/14:35/18:40 12:40/16:45/20:50(終映22:30)
20(火)	花影 『赤坂の姉妹』より 夜の肌	10:30/14:30/18:30 12:35/16:35/20:35(終映22:20)
21(水)	青べか物語 縞の背広の親分衆	11:30/15:15/19:00 9:45/13:30/17:15/21:00(終映22:30)
22(木)	喜劇 とんかつ一代 イチカバチカ	11:45/15:25/19:05 9:50/13:30/17:10/20:50(終映22:30)

川島雄三(かわしま・ゆうぞう)

1918年(大正7年)2月4日、青森県むつ市田名部町生まれ。38年、松竹に入社。『還って来た男』(44年)で監督デビュー。『とんかつ大将』(52年)、『東京マダムと大阪夫人』(53年)などプログラム・ピクチャ路線に取まらない作風が評価されるが、『昨日と明日の間』(54年)を最後に松竹を去り、製作再開した日活に移籍。諷刺喜劇『愛のお荷物』(55年)で持ち味を発揮し、『洲崎パラダイス 赤信号』(56年)や古典落語に材を採った代表作『幕末太陽傳』(57年)などを監督。その後、東宝傘下の東京映画で、『女であること』(58年)、『グラマ島の誘惑』(59年)、『縞の背広の親分衆』(61年)、大映で『女は二度生まれる』(61年)、『しとやかな獣』、『雁の寺』(62年)など、「日本軽佻派」を自称した川島の多面性が現れた作品群を手掛ける。63年6月11日、急逝。

『監督川島雄三 松竹時代』

カワシマクラブ・編
A5判360頁 2500円(税別)
2014年5月刊行



川島雄三監督作品のニュープリント作成及び上映活動を長年続けてきた「カワシマクラブ」の川島雄三へのオマージュ本!!
今回は「没後50年・松竹時代特集」

〈内容〉松竹作品全解説・「泥馬クラブ」完全収録・処女作『還って来た男』のシナリオ織田作之助・原作/脚本「四つの都」完全収録・手紙・エッセイ・などなど

生誕W100年

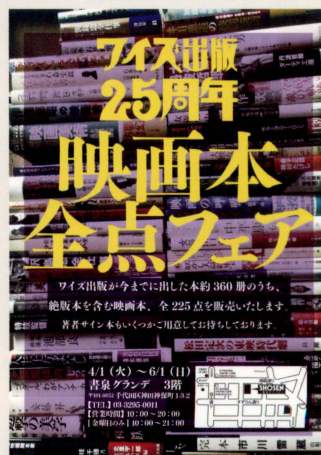
『伊福部昭 語る』

伊福部昭・述 小林淳・編
A5版 上製400頁 2,750円(税別)

自作映画音楽について 伊福部昭が自ら語る...

『昨日消えた男』

小國英雄シナリオ集II
小國英雄・著 和田誠・装丁
A5判上製 432頁 3,800円(税別)
〈内容〉シナリオ計7作品と筒井康隆、石上三登志、菊島隆三、山田宏一、山根貞男、小林信彦、黒澤明、山田洋次の寄稿



ワイズ出版 25周年
映画本全点フェア
書泉グランデ(神保町)

4/1(火)~6/1(日)

【営業時間】1000~2000
【金曜日のみ】1000~2100

開催中!

新文芸坐

豊島区東池袋1-43-5 マルハン池袋ビル3F
池袋東口徒歩3分 TEL:03-3971-9422
http://www.shin-bungeiza.com
twitterアカウント: shin_bungeiza

ご入場料金 [2本立て]
●一般 1,300円/学生 1,200円
●友の会・シニア 1,050円
●ラスト1本
一般・学生 850円/友の会・シニア 800円
●プリントによっては映像や音声の状態が悪い場合があります
●上映開始30分以降のご入場はご遠慮ください



2014年5月12日(月)~22日(木)

新文芸坐

www.shin-bungeiza.com

没後 50 年

映画監督 川島雄三

「監督川島雄三 松竹時代」出版記念上映会

さ
よ
な
ら
だ
け
が
人
生
だ

没後 50 年

映画監督

川島雄三

「監督川島雄三 松竹時代」出版記念上映会

作品解説：若井信二

5月12日(月)

還って来た男

[1944/松竹/16mm]
白黒・スタンダード・87分



©1944 松竹

【原・脚】織田作之助【撮】斎藤義【音】大澤秀人【美】小島基司【出】佐野周二、田中絹代、笠智衆、吉川満子、小堀誠、日守新一、三浦光子、文谷千代子、坂本武、山路義人
戦地から帰還した気のいい軍医を主人公にした川島のデビュー作。戦時中ながらこの明るいユーモア!織田に脚本も依頼するなど意気投合した川島は共に日本軽佻派を標榜、のちの作風にも大きな影響を与えた出会いとなった。

人も歩けば

[1960/東宝]
白黒・シネスコ・99分



©1960 TOHO co.,Ltd

【原】梅崎春生【脚】川島雄三【撮】岡崎宏三【音】真鍋理一郎【美】小島基司【出】フランキー堺、小林千登勢、淡島千景、加東大介、桂小金治、藤本悠、横山道代、沢村貞子、森川信
質屋に婿入りした桂馬だが、嫁は出戻り娘。口うるさい義母には辟易。そこに莫大な遺産が転がり込んで……。11本の川島作品に出演したフランキーは「自分が持っているものを残らず引っぱり出された感じ」と語っている。

5月13日(火)

とんかつ大将

[1952/松竹/16mm]
白黒・スタンダード・95分



©1952 松竹

【原】富田常雄【脚】川島雄三【撮】西川亨【音】木下忠司【美】逆井清一郎【出】佐野周二、津島恵子、角梨枝子、高橋貞二、幾野道子、坂本武、三井弘次、徳大寺伸、美山悦子、小園蓉子
金持ちの息子ながら長屋に住み、無償で治療するとんかつ好きの青年医師と市井の人々との交流が綴られる人情喜劇。長屋を去っていくラスト(最後に渡すとんかつ!)には感涙必至。艶歌師・吟月に扮した三井の演技が際立つ。

特急につぼん

[1961/東宝]
白黒・シネスコ・85分



©1961 TOHO co.,Ltd

【原】獅子文六【脚】笠原良三【撮】遠藤精一【音】真鍋理一郎【美】小川一男【出】フランキー堺、団令子、中島そのみ、白川由美、小沢栄太郎、滝田裕介、太刀川寛、沢村貞子、森川信
原作「七時間半」。特急はとよりも東京～大阪間が1時間短くなった特急こだまが舞台。食堂車のコックとウエイトレスの恋をメインに、奇妙な乗客たちによる賑やかな群像劇。新幹線以前の駅や列車風景は鉄道ファンにも必見だ!

5月14日(水)

東京マダムと大阪夫人

[1953/松竹/16mm]
白黒・スタンダード・97分



©1953 松竹

【原】藤沢桓夫【脚】富田常雄【撮】高村倉太郎【音】木下忠司【美】逆井清一郎【出】三橋達也、月丘夢路、大坂志郎、水原真知子、芦川いづみ、高橋貞二、北原三枝、坂本武、多々良純
東京郊外あひるヶ丘、隣同士の社宅に住む大阪育ちの西川夫人と東京出身の伊東夫人の見栄の張り合いを快調なテンポで見せる。家電がステータスになり始めた世相も興味深い。本作がデビューの芦川いづみの可憐さは特筆もの!

グラマ島の誘惑

[1959/東宝]
カラー・シネスコ・106分



©1959 TOHO co.,Ltd

【原】飯沢匡【脚】川島雄三【撮】岡崎宏三【音】黛敏郎【美】小島基司【出】森繁久彌、三橋達也、宮城まり子、淡島千景、八千草薫、久慈あさみ、轟夕起子、フランキー堺、浪花千栄子
戦時中、皇族、軍人、慰安婦たちが孤島に漂着する。川島初のカラー作品は、岡崎と「どうせなら絵箱をひっくり返したような極彩色でやろう」とロケ先の島ごとペンキで染め、異様な笑いの中に皇族批判を盛り込んだ怪作!

5月15日(木)

明日は月給日

[1952/松竹/16mm]
白黒・スタンダード・90分



©1952 松竹

【原】宮崎博史、北町一郎、鹿島孝二【脚】柳沢類寿【撮】西川亨【音】木下忠司【美】中村公彦【出】日守新一、高橋貞二、英百合子、望月優子、渡辺篤、井川邦子、大坂志郎、紙京子
8人もの子供を抱えるサラリーマンの奮闘ぶりが微笑ましいコメディ。盟友・柳沢とのコンビはハチャメチャなギャグをやる上層部から睨まれた時期もあったという。川島作品常連・桂小金治が落語の稽古をするシーンは貴重。

接吻泥棒

[1960/東宝]
カラー・シネスコ・83分



©1960 TOHO co.,Ltd

【原・出】石原慎太郎【脚】松山善三【撮】中井朝一【音】黛敏郎【美】村木忍【出】宝田明、団令子、新珠三千代、草笛光子、河津清三郎、有島一郎、北あけみ、中谷一郎、東郷晴子
人気チャンピオンが交通事故で気を失った令嬢に口移しで水を飲ませたところを写真に撮られ巻き起こる騒動。マスコミへの揶揄もこめながら、機関銃のように放たれるセリフでスピードに展開するラブコメの快作。これぞ、モダニズム!

5月16日(金)

お嬢さん社長

[1953/松竹/16mm]
白黒・スタンダード・93分



©1953 松竹

【脚】富田常雄、柳沢類寿【撮】西川亨【音】万城目正【美】梅田千代子【出】美空ひばり、佐田啓二、月丘夢路、大坂志郎、多々良純、小園蓉子、桂小金治、坂本武、有島一郎、桜木つ子
病気で倒れた日本一乳業の社長に代わって16才の孫娘が就任!会社乗っ取りを企む一派の陰謀、出生の秘密など盛りこみ、もちろんひばりの唄もたっぷり聴ける!演出に確かな手腕を見せた川島はひばりの勘のよさを褒めている。

暖簾

[1958/東宝]
白黒・シネスコ・123分



©1958 TOHO co.,Ltd

【原】山崎豊子【脚】八住利雄、川島雄三【撮】岡崎宏三【音】真鍋理一郎【美】小島基司【出】森繁久彌、山田五十鈴、乙羽信子、浪花千栄子、中村鴈治郎、扇千景、環三千子、山茶花究
原作は山崎が生家をモデルに書いた処女作。老舗の本店から暖簾分けされて昆布問屋を営む夫婦を通して、大阪商人気質を見事に描出した。実家が商家だった川島は自身の父を重ね合わせたという。撮影の岡崎と初コンビ作。

愛のお荷物

[1955/日活]
白黒・スタンダード・111分



©日活

【脚】柳沢類寿、川島雄三【撮】横峰重義【音】黛敏郎【美】中村公彦【出】山村聰、三橋達也、山田五十鈴、北原三枝、轟夕起子、東野英治郎、小沢栄、殿山泰司、小沢昭一、フランキー堺
産院制限を訴える厚生大臣の家に皮肉にも次々と子供が出来てしまう……。軽妙洒脱、諷刺のスパイスがたっぷり効いた語り口は川島の真骨頂。戯曲の原作権がとれず脚本に苦勞したが、好きな題材と川島は語っている。

女は二度生まれる

[1961/KADOKAWA]
カラー・シネスコ・99分



©1961 KADOKAWA

【原】富田常雄【脚】井手俊郎、川島雄三【撮】村井博【音】池野成【美】井上章【出】若尾文子、藤巻潤、フランキー堺、山岡久乃、山村聰、山茶花究、江波杏子、上田吉二郎、村田知栄子
二流芸者の男性遍歴を通して、ひとりの女性の生きる哀しみから天皇制批判まで遠望する川島畢生の傑作。製作発表で「若尾君を女にしてお目にかけます!」と豪語した川島に応え、若尾はキネ旬とブルーリボン女優賞を獲得した。

銀座二十四帖

[1955/日活/16mm]
白黒・スタンダード・117分



©日活

【原】井上友一郎【脚】柳沢類寿【撮】横山實【音】仁木他喜雄【美】中村公彦【出】月丘夢路、三橋達也、河津清三郎、北原三枝、大坂志郎、安部徹、岡田真澄、浅丘ルリ子、芦田伸介
イニシャルを手がかりに少女時代の肖像画を描いた画家を探す和歌子。森繁久彌のナレーションはストーリーにタッチせず銀座案内に徹するのが異色。森永の地球儀ネオン、築地川など当時の銀座の風景を巡ることができる。

5月20日(火)

花影

[1961/東宝]
カラー・シネスコ・99分



©1961 TOHO co.,Ltd

【原】大岡昇平【脚】菊島隆三【撮】岡崎宏三【音】池野成【美】小島基司【出】池内淳子、佐野周二、池部良、高島忠夫、有島一郎、三橋達也、淡島千景、筑波久子、山岡久乃、塩沢とき
男たちに翻弄される銀座の雇われマダム(原作)は実在のモデルがあった)の孤独と哀しみ。フランスで川島作品の特集上映があったとき、最も評価が高かったのが本作と「貸間あり」の2本だったという。陰影に富んだ撮影が絶品。

青べか物語

[1962/東宝]
カラー・シネスコ・101分



©1962 TOHO co.,Ltd

【原】山本周五郎【脚】新藤兼人【撮】岡崎宏三【音】池野成【美】小島基司【出】森繁久彌、池内淳子、左幸子、乙羽信子、フランキー堺、山茶花究、東野英治郎、中村メイコ、加藤武
浦安(劇中では浦和)を訪れた疲労感を漂わせた作家。偶然の旅行者と漁村の住人たちの苦い交流と詩情が独特の色調で映し出される。川島の「印象派でやろう」という狙いに名コンビの岡崎も応え、自身の代表作と語っている。

5月22日(木)

喜劇とんかつ一代

[1963/東宝]
カラー・シネスコ・94分



©1963 TOHO co.,Ltd

【原】八住利雄【脚】柳沢類寿【撮】岡崎宏三【音】松井八郎【美】小野友滋【出】森繁久彌、フランキー堺、加東大介、淡島千景、団令子、三木のり平、池内淳子、山茶花究、岡田真澄
「食べる物」にテーマがなきや、ダメです」と語る食通・川島のグルメ映画。とんかつを掲げる油っこいアンクルなど岡崎の奇抜な撮影、クロレア研究者など奇人たちが続々登場する川島らしい一篇。森繁唄う主題歌が楽しい!

洲崎パラダイス・赤信号

[1956/日活]
白黒・スタンダード・81分



©日活

【原】芝木好子【脚】井手俊郎、寺田信義【撮】高村倉太郎【音】真鍋理一郎【美】中村公彦【出】新珠三千代、三橋達也、轟夕起子、河津清三郎、芦川いづみ、小沢昭一、植村謙二郎
勝間橋を渡って遊廓町・洲崎にやって来たわけありの男と女。腐れ縁のふたりを取り巻く人々が醸し出す人生のやるせなさ、取り残された町の風景に抒情と寂寥感が滲む。川島自身、お気に入りの作品だったという。必見!

しとやかな獣

[1962/KADOKAWA]
カラー・シネスコ・96分



©1962 KADOKAWA

【原・脚】新藤兼人【撮】宗川信夫【音】池野成【美】柴田篤二【出】若尾文子、伊藤雄之助、山岡久乃、浜田ゆう子、川畑愛光、高松英郎、小沢昭一、ミヤコ蝶々、船越英二、山茶花究
狭い団地の室内だけで展開し、縦横無尽のカメラワークや毒々しい夕焼けの赤、シュルレアライティなど川島の才気が存分に発揮された傑作。すべて欲望の塊の登場人物の狂態に高度成長への批評がこめられる。キネ旬6位。

女であること

[1958/東宝]
白黒・スタンダード・100分



©1958 TOHO co.,Ltd

【原】川端康成【脚】田中澄江、井手俊郎、川島雄三【撮】飯村正【音】黛敏郎【美】小島基司【出】原節子、森雅之、久我美子、香川京子、三橋達也、石浜朗、太刀川洋一、南美江、山本学
日活から東京映画に移籍第1作は川端原作の川島流文芸映画。結婚10年を迎え、少々倦怠気味の看護士夫婦。預かっている死刑囚の娘に加えて、家出娘の面倒を見ることになるが……。原、久我、香川の豪華共演も見どころ。

『赤坂の姉妹』より 夜の肌

[1960/東宝]
カラー・シネスコ・103分



©1960 TOHO co.,Ltd

【原】由起しげ子【脚】八住利雄、柳沢類寿、川島雄三【撮】安本淳【音】真鍋理一郎【美】小島基司【出】淡島千景、新珠三千代、川口知子、伊藤雄之助、三橋達也、山岡久乃、塩沢とき
赤坂のバーを舞台に三人姉妹の生き様を描く。男たちの間をうまく立ち回りのし上ろうとする長女、反発し自分の生き方を模索する妹たち。赤坂界隈を活写した風俗ドラマであると同時に安本闘争など時代背景への目配りも。

縞の背広の親分衆

[1961/東宝]
カラー・シネスコ・91分



©1961 TOHO co.,Ltd

【原】八住利雄【脚】柳沢類寿【撮】岡崎宏三【音】松井八郎【美】小島基司【出】森繁久彌、フランキー堺、淡島千景、団令子、有島一郎、桂小金治、ジェリー藤尾、藤間紫、西村晃
森繁がブラジルから帰国した元親分(森繁の当たり役・森の石松の末裔という設定にニヤリ)に扮するヤクザ映画のバロデ。シリアスな毎日5〜6ページの号外を配り撮影していくという慌ただしい現場だったという。

イチかバチか

[1963/東宝]
白黒・シネスコ・101分



©1963 TOHO co.,Ltd

【原】城山三郎【脚】菊島隆三【撮】澤込謙【音】池野成【美】青野重一【出】伴淳三郎、ハナ肇、高島忠夫、水野久美、山茶花究、谷啓、団令子、横山道代、若宮忠三郎、松本染井
工場建設にからみ、詐欺を画策する食えない連中が蠢く。当時、「現代を描いていくことになる」と、究極的に喜劇のかたちになると思うと語った川島の社会派喜劇。川島は封切り5日前に急逝、不世出の鬼才の遺作となった。